

「正信念仏偈」データベースと e ラーニングの構築 ～その1 五線譜化へのプロセス

深 見 友紀子
遠 山 和 大
赤 羽 美 希

1. はじめに

「正信念仏偈」（以下、「正信偈」とする）は、真宗各派において日常的に用いられる偈文の一つであり、いわゆる「棒読み」ではなく、各派が独自に定めた旋律を付けて読誦されており、そのリズムやテンポ、アーティキュレーション、曲想はそれぞれかなり異なっている。

「正信偈」の旋律が派によって異なっていること自体は、僧侶の間でも広く知られている。一方、自身が所属する派以外で用いられている旋律がどのようなものであるのかについて、ほとんど知らない僧侶や門徒も多く、たとえ興味を引かれることであったとしても、その差異を具体的に知る機会はあまりない。

学術的な面においても、「正信偈」の偈文（テキスト）に関する研究は数多く行われているが¹⁾ 各派の旋律を比較する研究は、筆者らの知る限りにおいてこれまで行われておらず、ましてや、「正信偈」の旋律のデータベース化に取り組んでいる例はない。また、「正信偈」の旋律を楽譜化する手法については過去にも例^{2) 3) 4)} があるが、音楽の専門家の手を経ずに楽譜化されたものや、「正信偈」の一部分だけが楽譜化されたものであり、必ずしも「正信偈」の旋律を完全に表現してはいなかった。そしてそれらの多くは各派の内部資料であり、一般的には入手困難である。

こうした状況を踏まえ、本研究「「正信念仏偈」——データベースと e ラー

ングの構築——」では、各派の「正信偈」の読誦を収集し、その音声を一般的な音楽学習で用いられる五線譜上に採譜すること、その音声と旋律譜（五線譜を用いて記譜）、および解説等をデータベース化してウェブ上に公開することを目的とした。

なお、本研究は2013～2014年度の2ヶ年度にわたって進める予定であり、その1年目（2013年度）の報告である本稿では、「正信偈」の音声収集の状況、次にそれらを五線譜化するプロセスを、特に木辺派の「正信偈」に焦点をあて、まとめることにする。

2. 「正信偈」の音源と楽譜収集

2.1 「正信偈」偈文

2013年度は、真宗10派⁵⁾のうち、本願寺派、大谷派、佛光寺派、興正派、木辺派の5派の本山を訪ね、「正信偈」の調査・分析を行った。

「正信偈」は、7言120句（840文字）からなり、浄土真宗の教えの要点を簡潔にまとめたものである。前に述べたように、各派で用いられている「正信偈」のテキストは同一であるが、そこに付された旋律は各派ごとに異なる。そして、一つの派のなかでも複数の旋律が定められている場合が多い。歴史的には、勤行を行う場面に合わせて数多くの旋律が存在していたようだが、時代とともに整理され、現代では各派3～10種類程度の旋律が定められ、使い分けられている⁶⁾。

たとえば、本願寺派を例に挙げると、以下の3種類がある。

- a) 「真譜」（しんぶ）：本願寺における「御正忌報恩講」で、1月16日の晨朝勤行にのみ用いられる旋律。
- b) 「行譜」（ぎょうふ）：比較的重要な法要の際に用いられる旋律。
- c) 「草譜」（そうふ）：日常的に用いられる旋律。

また、木辺派の場合は以下の4種類が定められている。

- a) 「真引」（しんびき）：報恩講などの重要な法要の際に用いられる旋律。

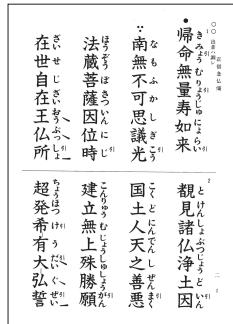
- b) 「中引」(ちゅうびき)：日常的に用いられる旋律。
- c) 「舌々」(ぜぜ)：棒読み。但し、部分的に伸ばす音がある。
- d) 「真流」(しんりゅう)：ゆっくりと棒読みする。

この他、大谷派では、「匁淘」(くゆり)・「匁切」(くぎり)・「真四匁目下」(しんしくめさげ)・「行四匁目下」(ぎょうしくめさげ)・「草四匁目下」(そうしくめさげ)・「墨譜」(ぼくふ)・「中拍子」(ちゅうびょうし)・「真読」(しんどく)・「舌々」(ぜぜ) の9種類があり、日常的に最も頻繁に用いられる旋律は、「草四匁目下」である。佛光寺派は、「真譜」(しんぶ)・「行譜」(ぎょうふ)・「草譜」(そうふ)・「舌々」の4種類。これらのうち、日常的に多く用いられるものは、「行譜」である。興正派は、「墨譜」・「中拍子」・「草譜」・「舌々」の4種類。日常的に多く用いられるものは、「中拍子」である。

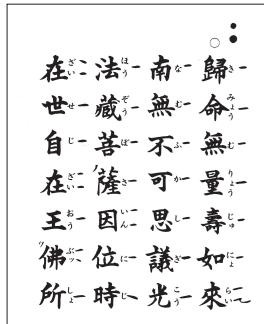
各派で用いられている旋律のうち、僧侶や門徒の間で日常的に最もよく使用されている旋律を、各派の担当者に確認して1～2種類選び、それらを収集の対象とした。具体的には、本願寺派「行譜」「草譜」、大谷派「草四匁目下」、佛光寺派「行譜」、興正派「中拍子」、木辺派「真引」「中引」である。

これらの7つの旋律に対応する「正信偈」の冒頭部分を資料1に示す。

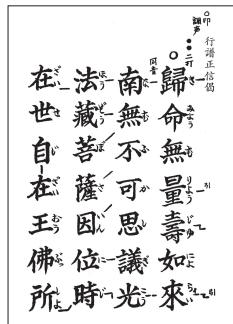
資料1 本研究で取り上げた5派の、「正信偈」の経本の冒頭部分。テキストの右側に、声明で用いられる一種の楽譜である「博士」が記入されている。



本願寺派（草譜・行譜）³⁾



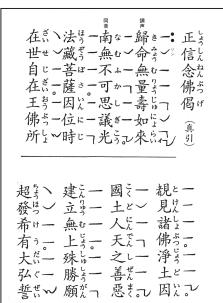
大谷派（草四句目下）⁷⁾



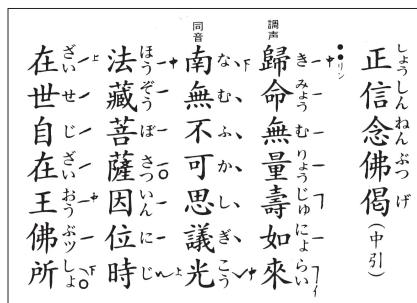
佛光寺派（行譜）⁸⁾



興正派（中拍子）⁹⁾



木辺派（真引）¹⁰⁾



木辺派（中引）¹⁰⁾

2.2 「正信偈」の音源収集

本願寺派・大谷派といった大規模な派の場合、派が定めた旋律による「正信偈」を録音した CD が市販されている。佛光寺派・興正派・木辺派の 3 派も「正信偈」を録音した CD を制作しており、それらは主として門徒向けに販売されているが、これまで各派の僧侶や門徒の間以外ではほとんど知られていなかった。そうした意味において、とりわけこの 3 派の資料は貴重である。

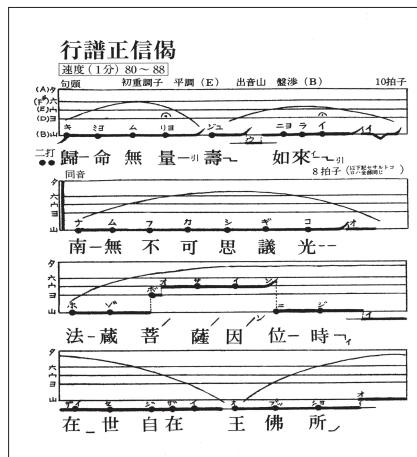
筆者らは当初は録音機材を各本山に持ち込み、僧侶に読誦をお願いして「正信偈」の音声を収録することを予定していたが、本年度に調査を行った 5 派については、幸いなことに上記の音源をもって旋律の収集とすることができた。

2.3 「正信偈」の楽譜化

従来、「正信偈」は口伝によって後世に伝授されてきたが、いわゆる楽譜に相当する「博士（はかせ）」と呼ばれる記号があり、現在用いられている「正信偈」の経本にも、それらが併記される場合が多い。資料 1 で示した各「正信偈」の例にも、各派で用いられている「博士」が記されている。しかし、これらの「博士」は、あくまでも参考として記入されているものであり、音高や音価（音の長さ）を厳密に表現したものではない。また、少なくとも現代においては、これらの博士を「読譜」すること自体が一般的ではなく、「正信偈」に親しもうとする人たちが「正信偈」の経本を見たとしても、具体的に旋律をイメージすることは非常に困難である。

こうした状況を開拓することを意図して、派によっては、「博士」に頼らない方法で旋律を表している場合もある。例えば、佛光寺派では、音高や音価を表現した一種の「五線譜」を採用している（資料 2）。また、本願寺派でも英文の『勤行聖典』で、「五線譜」を利用した表現がとられている（資料 3）。

資料2 佛光寺派で用いられている、「五線譜」に記した「正信偈」の経本。¹¹⁾



資料3 本願寺派の英語版『勤行聖典』に掲載された「五線譜」による旋律の表現。¹²⁾

gyofu

c F —————— V —————— V ——————
 A ラ go ku ji u —————— yu i —————— V ——————
 G ソ —————— a ku ni n —————— sho u —————— bu ——————
 F ファ —————— bu —————— tsu ——————
 D レ —————— tsu ——————

極重愚人唯称仏

c F —————— ya —————— V —————— V ——————
 A ラ エ —————— ku —————— sss+ —————— za i hi —————— shu —————— chi —————— u ——————
 G ソ —————— —————— —————— —————— —————— —————— ——————
 F ファ —————— —————— —————— —————— —————— —————— ——————
 D レ —————— —————— —————— —————— —————— —————— ——————

我亦在彼摄取中

c F —————— V —————— V ——————
 A ラ bo n —————— —————— ——————
 G ソ no u sho ge —————— —————— ——————
 F ファ —————— u —————— —————— ——————
 D レ —————— n su i fu ke n ——————

煩惱鄙眼難不見

c F —————— V —————— V ——————
 A ラ da i mu —————— jo u ——————
 G ソ hi ke n se u —————— ——————
 F ファ —————— u —————— —————— ——————
 D レ —————— —————— —————— ——————

大悲無倦常照我

3. 五線譜化へのプロセス

3.1 採譜

「正信念仏偈」の旋律は、優れた指導者による直接の指導によって習得するのが望ましいであろう。しかし、各派から CD が出ていることからもわかるように、録音技術、再生メディアの普及によって、その学び方にも変化が生じている。

五線譜に定着させることによって、口伝で伝わる旋律の微妙なニュアンスが単純化されてしまうのではないかという葛藤は常にある。いやそれ以前に、各派が出している CD による聴取が、読誦の固定化につながる危険性は十分ある。現代において、単純化による普及か複雑性の重視による洗練か、といった二項対立をどのように解消し、折り合いをつけていくかには議論の余地はある。筆者らは、こうした点に悩みながらも、五線譜を読みながら聴取することによって、より多くの人が「正信念仏偈」に親しむことができ、浄土真宗系学校の学生の学習や、一般門徒の家庭での勤行の練習に有益であるという面をプラスに捉えることにした。

そこで、採譜にあたっては、収集された音源を可能な限り忠実に五線譜上に記譜し、かつ必ずしも楽譜を読むことに慣れていない人たちでも容易に読譜できるように、現代音楽の記譜に用いられる複雑な記号等を使用することがないように配慮した。

本願寺派「行譜」「草譜」、大谷派「草四句目下」、佛光寺派「行譜」、興正派「中拍子」、木辺派「真引」「中引」の冒頭部の採譜を示すと以下のようになる(資料4)。

資料4 本研究で作成した、5派の「正信偈」の楽譜。

鐘 ca.3sec. ca.3sec. ♩=50 ca. (rit. - poco accel. - rit) ca.3sec. (♩=45 ca.) Tutti accel. ----- V
声 Solo Rubato
きみよ うむ りよ うじゆ よらい なも ふかしぎ こう
ほうぞうぼさついんにじ さいせじざいおぶつしょ ときんしょ ぶつじょうといん

本願寺派（草譜）

鐘 ca.3sec. ca.3sec. ♩=50 ca. rit. ca.2sec. (♩=50 ca.) Tutti accel. ----- V
声 Solo
きみよ うむ りよ うじゆ よらい なも ふかしぎ こう
ほうぞうぼさついんにじ さいせじざいおぶつしょ ときんしょ ぶつじょうどういん

本願寺派（行譜）

鐘 ca.2sec. ca.1sec. ♩=60 ca.
p mf
accel. ----- V
きみよ むりよ じゆ よらい
なむ ふかしぎ こう ほうぞうぼさいんにじ さいせじざいおぶつしょ

大谷派（真四句目下）

鐘 ca.4sec. ca.4sec. ♩=70 ca. poco
声 Solo port.
き一みよ むりよ うじゆ うう 一 よらい い
い 一 い い
poco V ♩=90 ca. Tutti
な一 む ふ か し ぎ こ 一 お

佛光寺派（行譜）

「正信念仏偈」データベースと e ラーニングの構築 ~その1 五線譜化へのプロセス

きみょう むりょう じゅによらい なもふかしぎこう
もうぞらばさいんにじざいせじざいおぶつしょとけんしょぶつじよどいん

興正派（中拍子）

きみょう むりょう じーう よーら
あいー なむー ふかーしぎ こーほうぞらばーさ

木辺派（真引）

きみょう むりょう じゅう よーらーいー
なーむふかしぎこう ほうぞらばー いんにじーざいせじざいおぶつしょ

木辺派（中引）

3.2 作曲家による校閲

採譜の作業において幾つかの疑問点が生じたため、また、より客観的な妥当性を持たせるため、現代音楽の専門家である井上郷子氏（国立音楽大学准教授）の校閲を受けた。

井上氏は、「僧侶もそれぞれ人によって唱え方が異なるであろうし、必ずしも厳密に音高やリズムが定まっているわけではないと思われる所以、五線譜に記

す場合、「どこかで妥協点を探っていかなければならない」とし、音高、音価に関するところはほとんど修正しなかった。しかし、以下の点についてさらなる検討の余地があるとした。

(1) リズムの記譜について

一般的に、という書き方では、16分音符を一拍の4分の1として明確に捉えがちで、極端の場合は、「タッカのリズム」と呼ばれ、「タッカタッカタッカタッカ」と跳ねて捉えられる恐れがある。「正信偈」の場合は、のような定量的な書き方より、4分音符という基本の拍があつてその内部は比較的自由度があり（つまり正確な16分音符にはならない）、のように唱えているようである。このことを楽譜の冒頭で指示しておくことが望ましいのではないか。また、テンポが速い場合は、4分音符のみ表記してもよいだろう（譜例1）。

譜例 1



(2) 強い音と曖昧な音の区別について

「正信偈」を唱える時、僧侶にアクセント、スタッカートの意識があるか、不明な箇所があった。16分音符、つまりの後ろの方の音が、はっきりと発音される時と、曖昧な時を区別し、前者に○、後者に（ ）をつけるとよいのではないか（譜例2）。

譜例 2



(3) フレーズの頭のずり上がりについて

必ずと言ってよいほど、各フレーズの頭が若干低めの音からずり上がる傾向にある。そのことを楽譜の冒頭に書いておくか、あるいはフレーズすべてにポルタメント *port.* または  を付すのがよいだろう。

(4) ad libitum.

音価、音程、テンポなどが自由な部分には、この記号を書いておくと便利である。木辺派「真引」における ad libitum. の箇所については、僧侶に確認したほうがよいと思われる。特に音程について、意図的に音程を外して唱えているのか、意図しないが外れてしまっているのかよくわからない箇所がある。また、リーダーとフォロワーの音程が異なっている箇所もある。

(5) 基音のピッチについて

おそらく唱える度にチューニングはしないであろうし、僧侶に絶対音感があるとは限らないため、半音やそれ以上の音程のぶれがある。また、唱和していく途中で音高が下がってしまうのも仕がないことだろうが、これらの点を考慮しても、レが中心音（基音）であると推定できる。

(6) 言葉の認識について

言葉が曖昧でよく聞き取れない箇所があるので、僧侶への確認が必要である。

4. 木辺派「真引」「中引」の五線譜化

4.1 僧侶へのヒヤリング

井上氏による校閲の後、3.2に記述した疑問点を解決するために、本願寺派は勤式指導所の堤栄祐主任、大谷派は宗務所本廟部の永井道文主事、木辺派は式務部の藤本秀曉部長・大幡義融副部長にヒヤリングを実施した。興正派については、既に楽譜データによる意見をいただいており、佛光寺派については近々

ヒヤリングを依頼する予定である。

ここでは、筆者らの疑問に対して、最も長時間にわたってヒヤリングと実演で回答してくださった木辺派に関して示す。

(1) リズムの記譜について

4分音符 \downarrow を基本の拍として、それを2対1で分けて唱えている。時々1対1で分けて唱えているが、厳密に2対1か1対1か決まっているのではない。4分音符内の、前の音と後の音が同一の場合は4分音符 \downarrow 、後の音が前の音と異なる場合は $\overline{\text{d} \text{d}}$ のように書く（譜例3）。

譜例 3



唱和前に演奏される鐘の音価は、2分音符である（譜例4）。

譜例 4



3連符の箇所を $\overline{\text{d} \text{d}}$ あるいは $\overline{\text{d} \text{d}}$ に変えてほしい（譜例5、6）。

譜例 5



譜例 6



(2) 強い音と曖昧な音の区別について

短くプレスをする時、プレスの前の音が短くなり、アクセントが付いてしまいがちである。アクセントを付けようと思図しているわけではないので、アクセント、およびスタッカートは削除してほしい（譜例7）。

譜例 7



フレーズの最後にある特に音量の小さな音については、実際に発音しているので、音符として書き、pp を付記してほしい（譜例8）。

譜例 8



(3) フレーズの頭のずりあがりについて

慣習上、フレーズの頭でずりあがっているように唱えるものも多いが、意図した音程変化ではないので、ポルタメントを記載する必要はない。

(4) ad libitum.

音価、音程、テンポなどが自由な部分には、Lubato よりもさらに自由度が高い、ad libitum. を採用する。

(5) 基音のピッチについて

録音においては、半音ほど下がっており、D^bで唱えているが、中引に関しては E を基音として唱えているので、修正してほしい。

(6) 言葉の認識について

経本では「ぼう ぞう」であるが、聞こえる通り「ほー ゾー」と書いてほしい。

母音で伸びしている音が拍の頭に来る時は、あらためて母音で表記してほしい（譜例9）。

譜例 9



4.2 木辺派「真引」「中引」五線譜の完成

可能な限り音源に忠実に、かつ複雑な記号等を使用しないように記譜し、その後、作曲家による校閲、僧侶へのヒヤリングを経て確定した楽譜の一部を資料5に示す。

「正信念仏偈」データベースと e ラーニングの構築 ~その1 五線譜化へのプロセス

資料5 作曲家の校閲および僧侶へのヒヤリングを経て確定した、木辺派「中引」の楽譜の一部。

真宗 木辺派 正信念仏偈 中引

♪=80-88 (♪=80 ca. Solo ad libitum.) ♪=65 ca. Tutti accel.

rit. (V)

き む りよ ら い な む ふ か し ぎ こ お
ほ ぞ ぼ さつ いん に じ い ざい せ じ ざい お ぶつ しよ
と けん しょ ぶつ じよ ど い いん こく ど にん でん し ぜん ま あく
二ん りよ む じよ し シよ が ん ちよ ほつ け う だい ぐ ぜえ
ご こ し ゆい し しよ じよ う じよ せい みよ しよ もん じよ ほ 一
ふ ほ む りよ む へん こ お む げ む たい こう えん の お
二 じよ かん ぎ ち え こ 一 ふ だん なん じ む しよ こ お
三 に ち が つ こ し じ せ え つ い つ さ い ぐ ん じよ mu こ 一
ほん が ん み こ こ し じ せ え つ い つ さ い ぐ ん じよ が ん に い いん

じょ ひ がく しょ だい ね は ん ひ し め ど が ん じょ じゅ う
こ ら い しょ い こ しゅ せ え ゆ せ み だ ほ ん が ん か い
こ ひ あ じ ぐん じょ か あ い お し ん に よ ひ に よ び つ ご お ん
の ほ い ち ね ん き あ い し ん ふ だ ん ほ ん の ね は あ ん
ほ ん し ジ き く ほ サ い え に ゆ う に よ し ゆ し に る か い い ち み 一
せ つ し ゆ し ん こ じ シ し ご お い の す は む み あ あ ん
と ん な い し ん ぞ し う ん む じ シ ふ し ん び し ん て そ ん
ひ に よ に つ こ う ふ う ん む う う ん む し い み ゆ ま あ ん
ぎ ゃ く し ん け ん き ょ だ い き ょ き い そ く お 一 ち ょ ぜ つ ご あ く し ゆ う
い つ さ い せ ん ま く ほ ぶ に ん も ん し ん に よ ら い ぐ ぜ が あ ん
お ご ん こ だ い し ょ げ し や あ せ に ん み ゆ か ん だ り け

5.まとめと今後の課題

本願寺派・大谷派・佛光寺派・興正派・木辺派の5派において、日常的に多く用いられている「正信偈」の旋律を収集することができた。このことにより、これまで各派に所属する僧侶や門徒の間で知られてきた、5派の「正信偈」の旋律が明らかとなり、それらの比較・検証が容易くなった。また、旋律を五線譜化することで、「正信偈」に親しむための参考資料を作成することができたといえよう。

木辺派の僧侶が行った実演や解説によって、木辺派「真引」「中引」の五線譜が完成したことで、筆者らも「正信偈」の旋律の五線譜化に際し、共通する留意事項を把握することができた。この経験を今後、他派の旋律を五線譜化する作業に生かすことができるため、作業の進行が加速するはずである。

「正信偈」データベースの作成については、各派において収集した「正信偈」の音声と、それらを採譜した楽譜（資料4）を使用して、ウェブページを作成した。各ページ内では音声ファイルの聴取と楽譜の閲覧が可能になっているが、楽譜は、作曲家の校閲、僧侶のヒヤリングを経た完成楽譜に差し替えていく予定である。

音声に関しては、著作権の関係上ダウンロードができないよう、ストリーミング方式による配信を行う計画である。本願寺派と木辺派からはCDの音声を公開する許諾を得ており、他の3派については公開の許諾を受けられるように調整を行っているところである。

現在のところ、このウェブページは一般には公開されていないが、条件が整い次第、京都女子大学のサーバー上で公開される予定である。その際には「正信偈 e-Learning 教材」として、浄土真宗系学校における宗教教育の教材、一般門徒の勤行の練習用教材、他派の「正信偈」の旋律に関心を持つ浄土真宗の僧侶の方々の参考資料などとして活用されることが期待される。

謝辞

本論文を執筆するにあたり、各派本山の皆様には、インタビューおよび音源資料等の収集にご協力をいただいた。本学黒田義道准教授には、「正信偈」について真宗学の観点から有益な助言を、本学野村伸夫元教授には、「正信偈」の資料に関して示唆をいただいた。ここに記して感謝の意を表する。

注

- 1) 「正信偈」の研究に関する文献は膨大な数にのぼるが、例えば以下のようなものが挙げられる。
 - a) 村上速水（1985）正信念仏偈讃述、永田文昌堂.
 - b) 重見一行（1981）教行信証の研究：その成立過程の文献的考察、法藏館.
 - c) 福永静哉（1991）淨土真宗伝承唱誦音概説—その歴史と現状、永田文昌堂.
- 2) 真宗大谷派宗務所式務部・真宗大谷派声明作法委員会編（1978）五線譜による大谷声明 1、法藏館.
- 3) 淨土真宗本願寺派日常勤行聖典編纂委員会編（2013）淨土真宗本願寺派 日常勤行聖典、本願寺出版社.
- 4) 淨土真宗本願寺派勤式指導所（2001）龍谷勤行要集、永田文昌堂.
- 5) 淨土真宗（真宗）系の仏教教派は多岐にわたるが、本稿では、真宗教団連合に所属する「真宗10派」について取り上げる。真宗10派とその本山は以下の通りである：
 - a) 淨土真宗本願寺派、本願寺（西本願寺；京都市）
 - b) 真宗大谷派、真宗本廟（東本願寺；京都市）
 - c) 真宗高田派、専修寺（津市）
 - d) 真宗佛光寺派、佛光寺（京都市）
 - e) 真宗興正派、興正寺（京都市）
 - f) 真宗木辺派、錦織寺（野洲市）
 - g) 真宗出雲路派、毫摶寺（越前市）
 - h) 真宗誠照寺派、誠照寺（鯖江市）
 - i) 真宗三門徒派、専照寺（福井市）
 - j) 真宗山元派、證誠寺（鯖江市）
- 6) 播磨照浩（1976）真宗各派声明の分類、印度學佛教學研究、Vol. 25, No. 1, pp.136–137.
- 7) 真宗大谷派宗務所本廟部編（2013）真宗大谷派勤行集、真宗大谷派宗務所出版部.
- 8) 本山佛光寺編（2011）真宗佛光寺派常用聖典、本山佛光寺.
- 9) 真宗興正派勤式指導研究所（2009）同朋聖典、真宗興正派宗務所.
- 10) 勤式委員会編（2010）真宗木辺派平成新編勤式集、真宗木辺派本山錦織寺.
- 11) 本山佛光寺（2004）真宗佛光寺派門信徒用行譜正信偈六首引五線譜、本山佛光寺・真宗

「正信念仏偈」データベースと e ラーニングの構築 ~その1 五線譜化へのプロセス

佛光寺派.

- 12) Jodo Shinshu Hongwanji-ha (2013) Jodo Shinshu Service Book, Hongwanji International Center.

〈キーワード〉

浄土真宗・仏教声明・正信偈・e- ラーニング・五線譜